



耐震性優れた 膜天井を開発

2017年3月、太極建設（愛知県豊田市）と岡山県の企業ら4者が協働で「膜天井（ファイバーシート天井システム）」を開発した。同じものづくりのまち同士が「コラボレーション」して全国展開を目指すのは、「吊る」という概念を覆す新発想の「張る」天井だ。

天井は「吊る」から「張る」へ

「ファイバーシート天井システム」の挑戦

軽量、高耐久、
簡易施工が特徴

設の岡本宏行は、地震発生後、安全であるはずの避難所でも天井落下事故が相次ぎ、益城町で避難所指定された建物の多くは崩壊寸前になると、住民は安全避難所を羨望を覚えた。岡本は、公共建築物（一般的に使われているのはボード状吊り天井）が「揺らぐと、たゞ落下しても大層に歪みず振動と、耐震性優れた膜天井が開発される」と述べた。

開発のきっかけは熊本地震
「ファイバーシート天井システム」を開発するきっかけは、2016年4月に発生した熊本地震がきっかけと話すのは、同協会の代表理事を務める太極建設の熊本地震



ものづくりのまちの企業が提携

従来の吊り天井は、耐震性に優れた天井は何か、岡本さんは、ある展示場でそれを裏切るシートに気づく。岡山県津和野市の産業支援センターで展示された地獄アギー、ヌラビーの「ファイバーシート」だ。「愛知県豊田市は、自動車産業（いづみ）のトップクラスを持つ。同じものづくりのまちである津和野市も、メーカーを手組んで、ファイバーシートを企画した。岡本さんの協力が、一般社団法人化を預し、全国展開の準備が整った。

全業が協同して連携した足寄町岡本さん、2016年の、膜天井の開発では、当初は自主交通のNETSに依頼したと話す。同協会は現在、正会員、賛助会員を募り、防災意識の高まりをきっかけに入れていくという。問い合わせ先は090-3111-7777。

ファイバーシート天井の
開発者太極建設の代表理事

協会設立し全国展開図る